

新潟民商

新潟民主商工会
新潟市中央区湊西3丁目10-14
電話(243)0141
12年7月9日

消費税増税―正念場の参院で廃案に!

去る六月二十六日、民主、自民、公明の三党が談合して合意した消費税増税法案が、ほとんど審議もされず、議席の数にものを言わせ、衆議院で強行採決されました。

「税と社会保障の一体改革」とは名目にすぎず、その中身は消費税の一〇%増税と社会保障の根本改悪です。

三年前の総選挙の時、民主党は「国民の生活が第一」「四年間は消費税増税をやらない」と国民に公約して、それまでの自公政治に嫌気がさした有権者の支持を得て、三〇八という圧倒的多数の議席を獲得しました。



三年前の総選挙の完全な公約違反

今回の三党合意は、この国民公約を完全に裏切り、民主党は造反者を出しながら、自民・公明の軍門に下ったのです。

どの新聞社の世論調査でも六割の国民が増税反対だというのが、解散・総選挙で国民の信を問うこともなく、「国会で増税派が圧倒的多数の今こそ通してしまえ」とばかりに野田首相は「決める政治」を強行しました。野田首相は自民・公明ともに、財界の年来の願望である消費税増税と社会保障費のさらなる削減のために奔走し、これに応えたわけです。

国会は参議院へと舞台を移しますが、国民の反対多数を背景とした民主党内の亀裂は深刻さを増しており、強行採決で怒った国民の運動の広がりとその亀裂と三党合意の矛盾をさらに拡大させつつあります。

五%でも払えない! ぶっ壊れ一〇%!!

私たち中小業者は、確定申告で今の五%の消費税の支払いですら、借金したり、分割納入したり、はたまた滞納して差押さえを受けたりしている有様です。どうして一〇%が払えましょう。私たちのこの実態をとにかく周りに話しましょう。そして署名を集めましょう。そのためにポスターも張り出しましょう。

全国津々浦々でこの運動をさらに広げることができれば、参議院で増税法案を廃案に追い込むことができます。

新潟市健幸すまいリフォーム支援事業全員当選

六三二件で一億六四七〇万円の申込

工事予定高で九億二千万円

六月から申し込みが行われていた「新潟市健幸すまいリフォーム支援事業」第一回目が六月二〇日申し込みが締め切れ、六三二件一億六四七〇万円の申し込みがあり、予定額の二億円以下(82.4%)でしたので全員当選となりました。区ごとの申請件数は、北区八三件・東区一一九件・中央区一二八件・江南区四八件・秋葉区五七件・南区三四件・西区一三六件・西蒲区二七件です。次は当選した方が八月七日までに本申請を行い工事着工となります。



これに続き八月八日から二回目の応募が行われます。予定金額は、一回目の使い残しと合わせ一億三三三〇万円となり(件数で五一九件程度)です。今度は抽選ではなく先着順です。一回目の申請に間に合わなかった方は、早速営業を始め、仕事確保をしましょう。

酒の味がこんなに違うのか!

第三回夢を語ろうナイトタイムin坂井輪

西地域では、新潟民商の名刺交換会と並行して、若手の業者の集まりを持っています。三回目として「塩川酒造の酒を飲み比べながら先輩業者と語る会」を六月二十九日に行い十人が参加しました。西内野の山田政実さん(配置薬販売業)のあいさつの後早速乾杯。

「COWBOY・YAMAHAI」「千の風」「もりひかり」「新雪物語」「願入(ねがいびと)」と次々と出てくるお酒を堪能しました。酒の味も様々で、「同じ酒造メーカーが作っているお酒でもこんなに違うものなのか」とビックリ。好みは様々で、それぞれ好きなお酒はみんなが違うようです。先輩業者からは「看板屋は手書き職人だったが、思い切って一千万円の機械を導入して仕事の幅が広がった」「毎週仙台の車のオークションに出かける。車はネットの画面だけでなく自分の目で確かめることが必要」など色々な話を聞きました。



七月二一日の第三回名刺交換会にもみんな参加する、四回目は事業所訪問をする計画です。

(2) 二一世紀は人々の暮らしに豊かさや便利をもたらす

企業に求められる

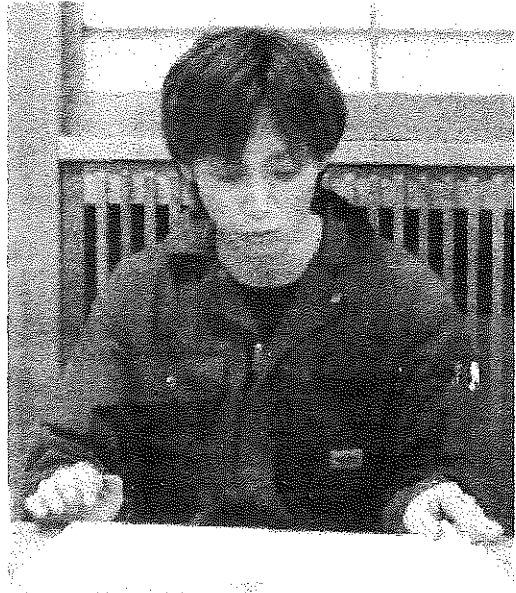
企業の生産というものは、本来人間に有用なものを、サービスを提供することが目的です。銀行は、直接的生産活動はしませんが、労働者や企業の当面足りないお金を預かり、それを必要な人に供給します。そのことで、物の生産をスムーズに大規模に行うことを支援する社会的な役割があるのです（もつと多面的な役割があります）。



物の生産には、有用な物・サービスを生産するというのが一面の他に、人間の労働を加えることによつて、そのものの価値を増やすという側面があります。資本主義社会になって大きな企業になると、この「価値を増やすこと（価値増殖）」が目的になり、どんな有用なものを作るのかというものは二義的な問題（価値を増やすための手段）となつていきます。それでも社会的に有用なものは作っているのです。

業者頑張る！ 黒埼支部 ambition 高橋忍さん
車両整備業 西区寺尾 3-5 ☎201-9637

車屋になったのは車が好きだったからです。若者が自分の車をこんなふうにしたいというのを叶えてあげたかった。元々はレーサーをしていました。レーサーは今もやっています。あとモデルもしています。一昨年レースでドバイに行きました。昨年もいく



予定だったのですが大震災でだめになりました。今年行くつもりなのですが仕事が込んでなかなか行けません。レースとショー的なものを作って、車の部品の販路を作りたい。日本の車両部品は質が高いので、海外でも十分売れます。前に行った時は大統領も来ていました。

商売の方は、従業員と二人で何とかとんとんです。夜10時まで仕事をしています。本当はもう一人増やしたいのですが、採算



がとれるかどうか。客層は若い人が多い。親の収入や本人の収入が減っているので、若者の車離れがすすんでいて大変です。

ところがそれがさら

にすすむと、社会的に有用な物をつくるということが、利益をあげるためのコストとなつていきます。それならば、そのようなコストもできれば省略して、何の生産的活動も行わずに利益をあげる（価値創造は何もしていない）ことを目指すようになります。典型はホリエモンや村上ファンドのような投機屋です。いつの時代にも、「町の風雲児」と呼ばれるような投機屋はいたのです。それが、経済が金融化し、金融が投機化して、世界の名だたる企業や金融機関の経営者が「短期的な利益」を目指して（短期的に利益を上げ、投資家に配当しないと代表をクビになるから）投機に走るようになりました。

しかし、それでは人類の幸せは作れないのです。あらためて、企業の社会的役割に立ち返り、二一世紀の今、人々の生活に役立つもの・サービスを生産することが求められています。それは、株主への高配当などを気にしなくてもいい中小業者だからこそできることです。

